

# 崎 定 長 検

## 一級 さん

Vol.11

「知ってるようで  
知らない街でした」

佐藤 純一  
さん

合格率五・三％…。長崎歴史文化観光  
検定の最難関を突破した一級ホルダー。  
その卓越した識見には、なにやら一言  
ありそうです。  
みづくはらたに寄稿願いました。

’90長崎旅博覧会があったのは高校生の頃で  
した。ガイドブックを片手に松が枝埠頭のメ  
イン会場に何度も出掛けたことを覚えていま  
す。この年には修学旅行で大阪の国際花と緑  
の博覧会（通称「花の万博」「EXPO'90」）  
にも行きました。旅に興味を持ち出したのは  
この頃からだったように思います。

京都に就職した頃から全国を旅行するよう  
になり、帰郷後は旅行中に知り合った人たち  
が長崎を訪れるようになって、長崎の街を案  
内することが多くなりました。グラバー園や  
出島などを案内する中で、「長崎は知ってる  
ようで知らない街」ということに気付きまし  
た。長崎についてもっと知ろう、歴史を勉強  
しようなどと思ったこの頃、ちょうど第1回  
の長崎検定が行なわれました。

第1回の長崎検定は受検していませんが、  
その頃、長崎新聞に掲載された問題をさっそ  
く解いてみました。3級問題で4割、2級問  
題では3割程度しか正解しませんでした。職

場の仲間もチャレンジしていましたが、一番  
解けた仲間でも合格の7割にはもう一歩でし  
た。方言やまちあるきなどの分野は十分解け  
ても、歴史や人物に関しては全くといって良  
いぐらい解けませんでした。ただし勉強し  
たら合格するのではないかと思いついて受  
験しました。3級に合格し、次の年2級に  
も合格しました。1級の試験は2級までの選  
択式と違い、全て記述式のため自信がなく受  
験を悩みました。最近では文字を手書きする  
ことが少なく、仕事でもほとんどパソコンで  
字を書くため、簡単な字も書けないことが多  
く、受験の直前には答えになりそうな単語を  
書き出し、久しぶりに鉛筆だこをつくったも  
のでした。勉強方法はテキストや講習会のレ  
ジューメ、インターネットを活用して、ノート  
を作っていました。ノートが出来上がった  
のは受験直前。出来上がったノートはあまり  
見ることなく受験しました。ノートを作って  
いく過程が自分の勉強になったようです。

1級に合格して思うことは、例えば、二十  
六聖人殉教、大浦天主堂の信徒発見、浦上四  
番崩れなど全て別々の事柄が、実は二十六聖  
人に捧げられた教会が大浦天主堂であり、そ  
こでの信徒発見が浦上の四番崩れを起こす原  
因になったことなど、歴史的な関連を理解す  
ることができました。ことほどさように長崎  
を様々な角度から見る事が出来るように  
なったということです。

大好きな長崎だから、さらに研鑽し沢山の  
人に長崎をアピールしようと思います。



【プロフィール】  
昭和48年生まれ  
島原市出身  
長崎県立盲学校勤務  
趣味は旅行と食べること